

今更イマサラニキコフラ雪零目メ八方モカギロ之ノ燎留モユル春部ハルベト常成ナリ西物シモノ乎ヲ

〔續性靈集十〕詠陽燄喻

遲遲春日風光動陽燄紛紛曠野飛舉體空空無所有狂兒迷渴遂忘歸遠而似有近無物走馬流川何處依妄想談議假名起丈夫美女滿城圍謂男謂女是迷思覺者賢人見則非五蘊皆空眞實法四魔與佛亦夷希瑜伽境界特奇異法界炎光自相暉莫慢莫欺是假物大空三昧是吾妃

〔古今和歌六帖天〕かげろふ

あるとみてたのむぞかたきかげろふのいつともまらぬ身とはまろく

〔永久四年百首春〕遊糸

まづけて吹くる風もなき空にみだれてあそぶいとぞみえける

源忠房

〔夫木和歌抄遊糸〕六百番歌合遊糸

のどかなる夕日の空をながむればうすくれなるにそむるいとゆふ

從二位家隆卿

武藏野逃水

〔倭訓栞前編二十〕にげみづ

武藏野の景色也春より夏かけてうらかになきたる空にわかく生しげりたる草の原に地氣のたも升るがこなたより見れば草の葉末をしるくと水の流るるが如く見ゆめりまことの水には非ずこと處にゆけば又むかふに見ゆるをもて名けり志怪錄に深州東鹿縣中有水影長七八尺遙望見人馬往來如在水中乃至前不見水と見えたり

〔散木弃歌集九〕恨躬耻運雜歌百首

沙彌能貪上

東路に有といふなるにげ水のにげのがれてもよをすぐすかな

〔袖中抄十九〕にげみづ

顯昭云にげ水とはあづまぢにあり人ののまんとすれどもおほかたくまれでにぐる水なりとぞいひつたへたる是は俊頼朝臣詠也是もさる事やはあるべきとおもへど人のいひ置たる事なればまろしとする也